

II 結果概要

□ 結果概要 留意点

- ・ 回答率は、小数点以下第2位を四捨五入したため、合計が100%にならない場合があります。
- ・ 回答を2つ以上選択する設問は、回答率の合計が100%を超える場合があります。
- ・ 1つを選択する設問において2つ以上選択したもの、または2つまで選択する設問において3つ以上選択したものは、無効回答としました。
- ・ 2つまで選択する設問において、2つ目に「特になし」という回答を選択した場合は、回答は「特になし」以外の選択の1つのみとして集計しました。
- ・ 各アンケートの調査結果については、参考として表やグラフで比較をしていますが、対象者の抽出、配布・回収方法などが異なっているため、調査結果を単純に比較することはできません。

1 各アンケート対象者の基本属性

項目・選択肢		対象者				
		生徒	中学校 保護者	小学校 保護者	教職員	市民
回答者数(全体)		738	677	1,276	637	753
性別 (保護者は子どもの性別) ※記述方式	有効回答者数(N)	736	654	1,237	—	729
	男性	51.1%	50.8%	51.8%	—	35.5%
	女性	48.8%	49.2%	48.2%	—	64.5%
	その他	0.1%	0.0%	0.0%	—	0.0%
子どもとの続柄	有効回答者数(N)	—	674	1,253	—	—
	父	—	5.2%	4.5%	—	—
	母	—	93.6%	94.6%	—	—
	その他	—	1.2%	0.9%	—	—
学年	有効回答者数(N)	738	677	1,276	—	—
	1年	36.3%	34.6%	15.2%	—	—
	2年	34.1%	35.0%	15.1%	—	—
	3年	29.5%	30.4%	18.3%	—	—
	4年	—	—	17.6%	—	—
	5年	—	—	18.2%	—	—
	6年	—	—	15.6%	—	—
年代	有効回答者数(N)	—	673	1,253	318	752
	10歳代	—	0.6%	0.1%	—	3.1%
	20歳代	—	0.7%	3.2%	32.8%	9.4%
	30歳代	—	22.7%	44.3%	18.9%	14.4%
	40歳代	—	68.5%	50.0%	11.5%	14.8%
	50歳代(50歳代以上*)	—	6.7%	1.8%	*36.7%	16.2%
	60歳代	—	0.6%	0.5%	—	19.5%
	70歳代以上	—	0.1%	0.2%	—	22.6%
世帯における小学生 以下の子どもの有無	有効回答者数(N)	—	673	—	—	—
	いる	—	44.9%	—	—	—
	いない	—	55.1%	—	—	—
世帯における中学生 以上の子どもの有無	有効回答者数(N)	—	—	1,252	—	—
	いる	—	—	35.9%	—	—
	いない	—	—	64.1%	—	—
世帯における 子どもの状況 ※複数回答あり	有効回答者数(N)	—	—	—	—	739
	未就学児・小学生	—	—	—	—	23.8%
	中学生	—	—	—	—	9.2%
	高校生以上の学生	—	—	—	—	16.1%
	上記のような子どもはいない	—	—	—	—	61.0%

2 現在の中学校の昼食について

(1) 基本情報

- ・「家庭で作った弁当」を持参することが基本
- ・「家庭で作った弁当」を持参できない場合は、学校で当日「業者弁当・パン」の注文が可能
(学校によっては、コンビニエンスストアなどで購入したものを持参することも可)
- ・原則全員に牛乳を提供(ミルク給食)

(2) 家庭で作った弁当

① 持ってくる(持たせる)頻度

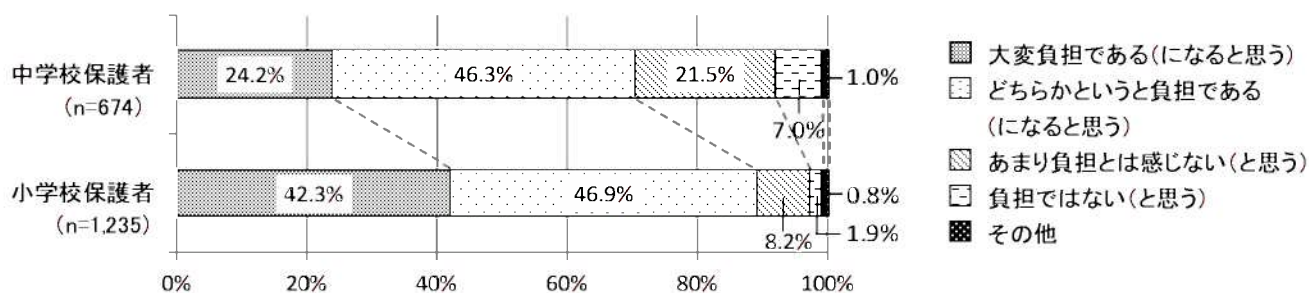
- ・「毎日またはほとんど毎日」が、生徒は93.0%、中学校保護者は94.5%であった。
- ・「週1回」「月1回」「持ってこない」という回答もあった。

選択肢	対象者	
	生徒	中学校保護者
有効回答者数(N)	738	674
毎日またはほとんど毎日	① 93.0%	① 94.5%
週2~3回	② 5.6%	② 4.9%
週1回	⑤ 0.3%	④ 0.1%
月1回	④ 0.4%	⑤ 0.0%
持ってこない	③ 0.8%	③ 0.4%

② 弁当を作ることへの負担感

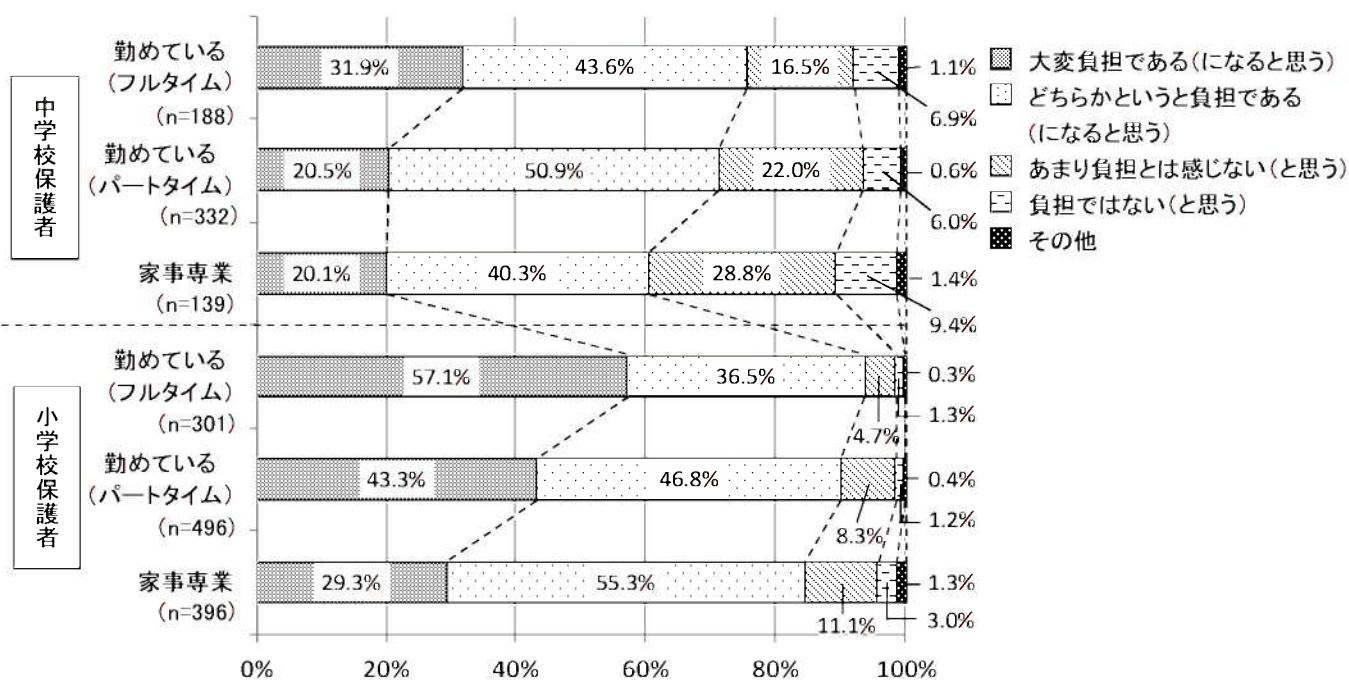
- ・「大変負担である（になると思う）」と「どちらかという負担である（になると思う）」の回答の合計は、小学校保護者が 89.2% で、中学校保護者の 70.5% よりも高かった。
- ・「大変負担である（になると思う）」も、小学校保護者が 42.3% で、中学校保護者の 24.2% よりも高かった。
- ・「あまり負担とは感じない（と思う）」「負担ではない（と思う）」の合計は、中学校保護者が 28.5% で、小学校保護者の 10.1% よりも高かった。

(問) あなたは、「家庭で作った弁当」を作ることへの負担についてどう感じて（考えて）いますか。



【参考】中学校保護者・小学校保護者の就業形態別（弁当を作ることへの負担感）

- ・就業形態別では、中学校保護者・小学校保護者とも勤めている（フルタイム）、勤めている（パートタイム）、家事専業の順で、「大変負担である（になると思う）」が高かった。



③ 良いと思う点【家庭で作った弁当】

- ・生徒は、「普段食べ慣れているものを食べられること（食べ残しが少ない）」が、55.3%で一番高く、また他の対象者よりも高かった。
- ・中学校保護者は54.6%、小学校保護者は57.9%、教職員は73.5%、市民は67.0%で、「生徒ごとに内容や分量が調整できること（食物アレルギー、個人の食べる量など）」が一番高かった。また、生徒も48.7%で二番目に高かった。
- ・「家族間の会話などコミュニケーションを取るきっかけになること」は、生徒が8.0%で他の対象者よりも低かった。
- ・「給食のように生徒自身が盛り付けや後片付けをする必要がないこと」は、当事者である生徒が18.9%、教職員も21.4%で他の対象者よりも高かった。
- ・「昼休みや登下校の時間など、生徒の時間割に影響がないこと（※給食の場合、盛り付けや片付けなどの時間が必要になる）」は、教職員が18.6%で他の対象者よりも高かった。

(問) 「家庭で作った弁当」に関して、あなたが良いと思うことを、以下の項目から2つまで選び、該当する番号に○をしてください。

選択肢	対象者		中学校保護者		小学校保護者		教職員		市民	
	生徒		生徒		生徒		生徒		生徒	
有効回答者数(N)	729		665		1,227		612		724	
普段食べ慣れているものを食べられること(食べ残しが少ない)	① 55.3%		② 35.9%		③ 30.8%		④ 20.4%		④ 25.4%	
生徒ごとに内容や分量が調整できること(食物アレルギー、個人の食べる量など)	② 48.7%		① 54.6%		① 57.9%		① 73.5%		① 67.0%	
家族間の会話などコミュニケーションを取るきっかけになること	⑥ 8.0%		④ 20.0%		④ 20.5%		⑤ 20.3%		③ 26.0%	
作った家族への感謝の心を持つこと	③ 33.7%		③ 31.0%		② 32.4%		② 37.9%		② 39.6%	
給食のように生徒自身が盛り付けや後片付けをする必要がないこと	④ 18.9%		⑧ 2.6%		⑦ 3.1%		③ 21.4%		⑥ 5.7%	
昼休みや登下校の時間など、生徒の時間割に影響がないこと(※給食の場合、盛り付けや片付けなどの時間が必要になる)	⑤ 8.5%		⑥ 6.5%		⑥ 5.2%		⑥ 18.6%		⑤ 7.7%	
その他	⑧ 2.6%		⑦ 3.2%		⑧ 2.0%		⑦ 2.0%		⑧ 2.8%	
特にない	⑦ 5.1%		⑤ 10.8%		⑤ 11.7%		⑧ 0.7%		⑦ 5.2%	

④ 課題と思う点【家庭で作った弁当】

- ・生徒は 40.4%で、「家庭に負担がかかること（弁当を作ることなど）」が一番高く、中学校保護者の 21.3%よりも高かった。
- ・中学校保護者は 75.2%、小学校保護者は 74.6%で、「衛生面に不安があること（暑い時期の食中毒など）」が一番高かった。
- ・「弁当が冷めてしまうこと」は、生徒が 36.0%で、他の対象者よりも高かった。
- ・「栄養バランスの面で心配なときがあること」は、中学校保護者が 44.8%、小学校保護者が 40.7%で、他の対象者よりも高かった。
- ・「生徒間に違いがあること（※家庭環境により弁当が持参できない、内容が充実していないなど）」は、教職員が 63.0%で、他の対象者よりも高かった。
- ・「生徒に負担がかかること（手荷物が重くなることなど）」は、生徒が 13.8%で、他の対象者よりも高かった。

(問)「家庭で作った弁当」に関して、あなたが課題だと思うことを、以下の項目から2つまで選び、該当する番号に○をしてください。

選択肢	対象者		生徒		中学校保護者		小学校保護者		教職員		市民	
有効回答者数(N)			730		649		1,216		617		718	
弁当が冷めてしまうこと	②	36.0%	④	18.8%	⑤	12.5%	⑥	5.7%	⑤	10.4%		
衛生面に不安があること(暑い時期の食中毒など)	③	30.5%	①	75.2%	①	74.6%	③	33.4%	①	59.3%		
栄養バランスの面で心配なときがあること	⑤	17.0%	②	44.8%	②	40.7%	④	22.9%	④	21.9%		
生徒間に違いがあること(※家庭環境により弁当が持参できない、内容が充実していないなど)	⑦	6.7%	⑤	10.3%	④	18.5%	①	63.0%	②	42.2%		
家庭に負担がかかること(弁当を作ることなど)	①	40.4%	③	21.3%	③	35.2%	②	39.9%	③	38.3%		
生徒に負担がかかること(手荷物が重くなることなど)	⑥	13.8%	⑥	7.7%	⑥	5.8%	⑦	1.1%	⑦	3.1%		
その他	⑧	1.5%	⑧	1.2%	⑧	0.6%	⑧	1.0%	⑧	1.3%		
特にない	④	17.1%	⑦	3.2%	⑦	1.7%	⑤	7.1%	⑥	5.6%		

(3) パン注文・弁当注文

① 利用頻度

- ・「毎日またはほとんど毎日」は、生徒が 1.4%、中学校保護者が 0.7%であった。また、「週 2～3 回」については、生徒が 6.0%、中学校保護者が 4.3%であった。
- ・「利用しない」は、生徒が 32.1%、中学校保護者が 41.6%であった。

(問) あなたは(お子さんは)、ふだん、学校で注文できる「業者弁当・パン」をどのくらい利用していますか。

選択肢	対象者		中学校保護者	
	生徒			
有効回答者数(N)	733		670	
毎日またはほとんど毎日	⑤	1.4%	⑤	0.7%
週2～3回	④	6.0%	④	4.3%
週1回	③	17.5%	③	12.2%
月1回	①	43.1%	②	41.0%
利用しない	②	32.1%	①	41.6%

② 良いと思う点【パン注文・弁当注文】

- ・生徒は、「複数のメニューから選択できること」が 60.6%で一番高かった。
- ・中学校保護者は 78.3%、教職員は 80.0%で、「当日注文できること」が一番高かった。
- ・「好きなメニューがあること」は、生徒が 32.6%で、他の対象者よりも高かった。

(問) 学校で注文できる「業者弁当・パン」に関して、あなたが良いと思うことを、以下の項目から 2 つまで選び、該当する番号に○をしてください。

選択肢	対象者		中学校保護者		教職員	
	生徒					
有効回答者数(N)	731		668		620	
複数のメニューから選択できること	①	60.6%	②	39.8%	②	56.0%
好きなメニューがあること	③	32.6%	③	15.9%	③	14.4%
自分の食べる量に合っていること	⑤	9.7%	⑥	1.9%	④	5.2%
当日注文できること	②	40.5%	①	78.3%	①	80.0%
その他	⑥	1.2%	⑤	3.4%	⑤	4.7%
特にない	④	15.5%	④	12.1%	⑥	3.2%

③ 課題と思う点【パン注文・弁当注文】

- ・生徒は、「値段が高いこと」が32.6%で一番高かった。
- ・中学校保護者は30.8%、教職員は59.2%で、「栄養バランスの面で不安なこと」が一番高かった。

(問) 学校で注文できる「業者弁当・パン」に関して、あなたが課題だと思うことを、以下の項目から2つまで選び、該当する番号に○をしてください。

選択肢	対象者		
	生徒	中学校 保護者	教職員
有効回答者数(N)	730	660	618
好きなメニューがないこと	⑥ 11.9%	⑥ 8.5%	⑥ 7.1%
食べる量が自分に合っていないこと	② 26.6%	⑤ 19.5%	③ 25.6%
栄養バランスの面で不安なこと	④ 24.7%	① 30.8%	① 59.2%
値段が高いこと	① 32.6%	③ 26.8%	② 32.2%
何となく注文しづらいこと	⑤ 18.9%	④ 19.8%	⑦ 4.2%
その他	⑦ 4.5%	⑦ 5.0%	⑤ 8.1%
特になし	③ 26.3%	② 27.0%	④ 13.1%

(4) コンビニやスーパーなどで購入したもの

- ・「毎日またはほとんど毎日」が0.4%、「週2～3回」が1.9%であった。
- ・「持ってこない」は、81.5%であった。

(問) あなたは、ふだん、コンビニやスーパーなどで購入したおにぎり・弁当・パンなどを持ってくるのがどのくらいありますか。

選択肢	対象者
	生徒
有効回答者数(N)	735
毎日またはほとんど毎日	0.4%
週2～3回	1.9%
週1回	3.0%
月1回	13.2%
持ってこない	81.5%

(5) 昼食を食べないこと

① 生徒が昼食を食べない頻度

- ・95.8%は、「(何も食べないことは) ない」と回答した。
- ・「月1回」「週1回」「週2～3回」「毎日」(何も食べない) という回答もあった。

(問) あなたは、ふだん、中学校での昼食時間に何も食べないことがありますか。(弁当を持ってきたが体調不良で食べるできない場合などを除く)

選択肢	対象者	生徒
有効回答者数(N)		734
(何も食べないことは)ない		95.8%
月1回(何も食べないことがある)		2.9%
週1回(何も食べないことがある)		0.3%
週2～3回(何も食べないことがある)		0.3%
毎日(何も食べない)		0.8%

② 昼食を食べない生徒の有無

- ・教職員の31.9%が昼食を用意できずに食べられない生徒が「いる」と回答した。

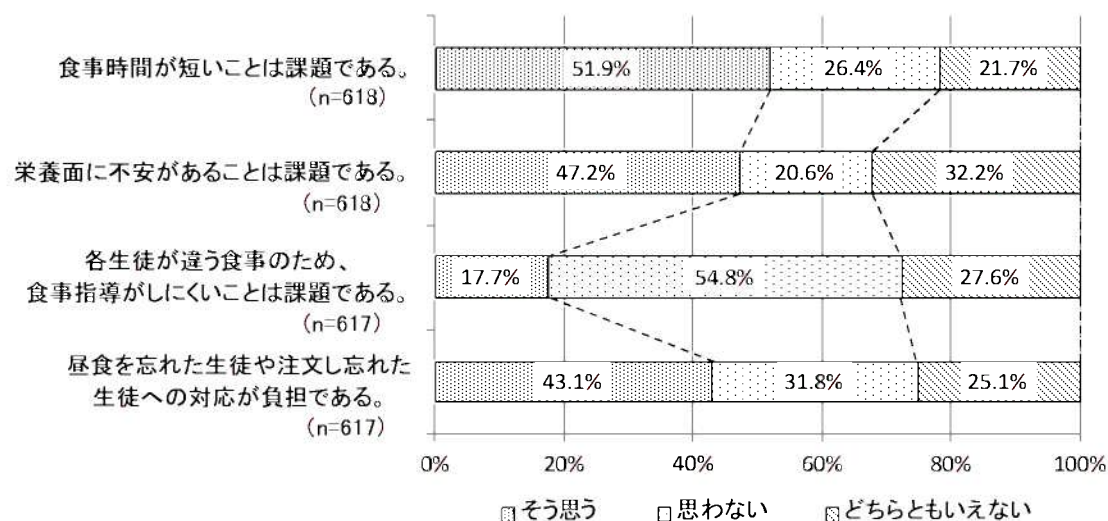
(問) 昼食を用意できずに食べられない生徒がいる。(あてはまるもの1つに○)

選択肢	対象者	教職員
有効回答者数(N)		611
いる		31.9%
いない		57.8%
把握する機会がない		10.3%

(6) 現在の中学校の昼食の課題

- ・「食事時間が短いことは課題である」は、「そう思う」が 51.9%で、「思わない」の 26.4%よりも高かった。
- ・「栄養面に不安があることは課題である」は、「そう思う」が 47.2%で、「思わない」の 20.6%よりも高かった。
- ・「各生徒が違う食事のため、食事指導がしにくいことは課題である」については、「そう思う」が 17.7%で、「思わない」の 54.8%よりも低かった。

(教職員)



【昼食に関する生徒間の問題】

(問) 昼食に関して、生徒間で問題が起きることがある。(あてはまるもの1つに○)

選択肢	対象者	教職員
有効回答者数(N)		610
ある		13.9%
ない		74.6%
把握する機会がない		11.5%

▶ 《生徒間の問題として回答のあった主な内容》

- ・ 人の弁当を勝手に食べる。
- ・ 弁当の中身を交換したりする中で、トラブルが起こることがある。
- ・ おかずの中身やパン注文が続くことに対するからかい
- ・ パン注文や弁当注文の金銭トラブル
- ・ 友達のおかずを欲しがらる。
- ・ 他人のお弁当へのいたずら など

【その他現在の中学校の昼食で課題と感じていること】

(問) 上記の項目の他に、現在の中学校の昼食で課題と感じていることがありますか。

(あてはまるもの1つに○)

選択肢	対象者	教職員
有効回答者数(N)		590
ある		20.7%
ない		79.3%

▶ 《その他現在の中学校の昼食の課題として回答のあった主な内容》

- ・家庭間の格差
- ・牛乳は不要
- ・未納（牛乳）の対応
- ・女子がダイエットを目的に量を調整している。
- ・パンの中身として、提示されているものより量が少なかったり、封が開いている等の不備がある。
- ・保護者の負担
- ・忘れた生徒が立ち歩く。
- ・親に作ってもらえない子が、自分でお弁当を作っているがバランスが悪い。
- ・親が弁当を買うようお金を渡しても、子どもは買わずにお小遣いに行っている場合がある。
- ・友達に見えないように弁当箱を隠しながら食べる生徒もいる。 など

3 「小学校のような給食」について

(1) 基本情報

今回のアンケートで「小学校のような給食」の方式としているのは、以下の内容です。

- ・学校や教育委員会の栄養士が献立を作成する
- ・学校や給食センター（給食を大量に作る施設）で調理される
- ・食缶（クラス全員分の給食が入った容器）で教室まで運搬される
- ・生徒自身が教室で、皿に盛り付ける
- ・原則、全員が同じ食事内容

(2) 良いと思う点【小学校のような給食】

- ・生徒は、「適温（温かい・冷たい）で昼食が提供されることが」が56.9%で、一番高かった。
- ・中学校保護者、小学校保護者、教職員、市民は、「栄養バランスの整った昼食が提供されること」が一番高く、いずれも60%を超えていた。
- ・「衛生面の不安が少ないこと」は、中学校保護者が28.7%、小学校保護者が31.2%で、他の対象者よりも高かった。
- ・「昼食が平等に提供されること」は、教職員が27.1%、市民が22.9%で、他の対象者よりも高かった。
- ・「家庭に負担がかからないこと（弁当を作ることなど）」は、全ての対象者が30%台であった。

(問) 「小学校のような給食」の方式について、あなたが良いと思うことを、以下の項目から2つまで選び、該当する番号に○をしてください。

選択肢	対象者	生徒	中学校 保護者	小学校 保護者	教職員	市民				
有効回答者数(N)		724	649	1,214	612	719				
適温（温かい・冷たい）で昼食が提供されること	①	56.9%	②	41.4%	②	32.5%	③	29.1%	④	22.8%
衛生面の不安が少ないこと	④	12.4%	④	28.7%	④	31.2%	⑤	9.0%	⑤	19.3%
栄養バランスの整った昼食が提供されること	②	46.5%	①	68.4%	①	77.0%	①	63.1%	①	65.0%
昼食が平等に提供されること	⑥	6.8%	⑤	9.2%	⑤	10.3%	④	27.1%	③	22.9%
家庭に負担がかからないこと(弁当を作ることなど)	③	38.1%	③	32.0%	③	31.3%	②	34.5%	②	33.4%
盛り付けなどの共同作業を通じて、協調性が養われること	⑦	4.8%	⑥	6.6%	⑦	5.4%	⑦	6.9%	⑥	12.8%
食育(食に関する知識や健全な食事のとり方など)に関心を持つようになること	⑧	1.7%	⑦	4.9%	⑥	8.0%	⑥	7.2%	⑦	12.4%
その他	⑨	1.1%	⑨	0.2%	⑧	0.6%	⑨	0.3%	⑨	1.0%
特になし	⑤	9.5%	⑧	1.2%	⑨	0.3%	⑧	5.2%	⑧	1.9%

(3) 課題と思う点【小学校のような給食】

- ・生徒は、「苦手なものを食べなければならないこと（食べ残しが多くなる）」が40.4%で一番高く、また他の対象者よりも高かった。
- ・「生徒ごとに内容や分量を調整するのが難しいこと（食物アレルギー、個人の食べる量など）」は、教職員が46.2%、市民が52.5%で、他の対象者よりも高かった。
- ・「盛り付けや後片付けをする必要があること」は、給食を実施した場合に当事者となる生徒が30.1%、教職員が21.4%で、他の対象者よりも高かった。
- ・「給食費に関する問題が生じる可能性があること（未払い、支払い方法など）」は、教職員が60.9%、市民が51.4%で、他の対象者よりも高かった。
- ・中学校保護者と小学校保護者については30%以上が、課題が「特にない」を選択した。

(問) 「小学校のような給食」の方式について、あなたが課題だと思うことを、以下の項目から2つまで選び、該当する番号に○をしてください。

選択肢	対象者		中学校保護者		小学校保護者		教職員		市民	
	生徒		生徒		生徒		生徒		生徒	
有効回答者数(N)	722		665		1,226		612		731	
苦手なものを食べなければならないこと(食べ残しが多くなる)	①	40.4%	⑥	13.2%	⑤	11.0%	⑤	12.7%	④	13.4%
生徒ごとに内容や分量を調整するのが難しいこと(食物アレルギー、個人の食べる量など)	②	30.6%	③	25.9%	②	32.5%	②	46.2%	①	52.5%
盛り付けや後片付けをする必要があること	③	30.1%	⑦	4.5%	⑦	3.9%	④	21.4%	⑦	5.2%
昼休みや登下校の時間など、生徒の時間割に影響が出る可能性があること(※盛り付けや片付けなどの時間が必要となるため)	⑤	17.7%	④	15.6%	⑥	9.4%	③	30.7%	⑥	8.1%
給食費に関する問題が生じる可能性があること(未払い、支払い方法など)	⑦	8.6%	②	26.8%	③	26.8%	①	60.9%	②	51.4%
もしも食中毒などが起きた場合、影響が大きくなる可能性があること	④	22.6%	⑤	15.2%	④	18.8%	⑥	9.8%	③	21.5%
現在の「業者弁当・パン」が注文できなくなること	⑧	4.7%	⑧	3.5%	⑧	2.1%	⑨	0.5%	⑨	1.8%
その他	⑨	1.2%	⑨	2.1%	⑨	1.6%	⑦	2.3%	⑧	2.2%
特にない	⑥	13.6%	①	33.1%	①	33.3%	⑧	1.3%	⑤	11.5%

4 「弁当箱タイプの給食」について

(1) 基本情報

今回のアンケートで「弁当箱タイプの給食」としているのは、以下の内容です。

- ・教育委員会の栄養士が献立を作成する
- ・給食を調理する施設で調理された弁当
(一人分ずつ弁当箱で提供される)
- ・インターネットなどから予約が必要で、給食費は前払い
(※「家庭で作った弁当」か「弁当箱タイプの給食」のどちらかを選びます。)

(2) 良いと思う点【弁当箱タイプの給食】

- ・生徒は、「ごはんや汁物は、適温（温かい・冷たい）で提供されること」が 36.2%で一番高かった。
- ・中学校保護者、小学校保護者、教職員、市民は、「栄養バランスの整った昼食が提供されること」が一番高かった。
- ・「昼休みや登下校の時間など、生徒の時間割に影響が少ないこと」は、教職員が 28.0%で、他の対象者よりも高かった。
- ・良いと思う点が「特にない」は生徒が 22.9%で、他の対象者よりも高かった。

(問) 「弁当箱タイプの給食」について、あなたが良いと思うことを、以下の項目から2つまで選び、該当する番号に○をしてください。

選択肢	対象者				
	生徒	中学校保護者	小学校保護者	教職員	市民
有効回答者数(N)	719	653	1,225	610	715
「家庭で作った弁当」と選択できること	④ 26.0%	④ 17.9%	④ 23.4%	④ 25.4%	③ 31.5%
ごはんや汁物は、適温(温かい・冷たい)で提供されること	① 36.2%	② 37.2%	③ 31.3%	⑤ 19.7%	④ 22.4%
衛生面の不安が少ないこと	⑦ 9.2%	⑤ 16.4%	⑤ 20.1%	⑦ 6.1%	⑤ 15.9%
栄養バランスの整った昼食が提供されること	③ 26.8%	① 49.5%	① 51.0%	① 44.8%	① 52.4%
家庭に負担がかからないこと(弁当を作ることなど)	② 28.0%	③ 27.9%	② 34.9%	② 34.1%	② 39.6%
昼休みや登下校の時間など、生徒の時間割に影響が少ないこと (※「弁当箱タイプの給食」の場合、盛り付けの時間がない)	⑥ 9.7%	⑥ 11.0%	⑥ 7.8%	③ 28.0%	⑥ 7.1%
食育(食に関する知識や健全な食事のとり方など)に関心を持つようになること	⑧ 1.4%	⑧ 1.8%	⑧ 1.1%	⑧ 2.3%	⑦ 6.3%
その他	⑨ 0.6%	⑨ 0.6%	⑨ 0.7%	⑨ 0.8%	⑨ 1.8%
特にない	⑤ 22.9%	⑦ 10.0%	⑦ 6.9%	⑥ 8.9%	⑧ 5.3%

(3) 課題と思う点【弁当箱タイプの給食】

- ・どの対象者も「予約前払いが必要なこと（当日の注文ができないこと）」が一番高かった。
- ・「苦手なものを食べなければならないこと（食べ残しが多くなる）」は、生徒が27.6%で、他の対象者よりも高かった。
- ・「生徒ごとに内容や分量の調整ができないこと（食物アレルギー、個人の食べる量など）」は、教職員が43.1%、市民が42.9%であった。また、他の対象者も20%を超えていた。
- ・課題と思う点が「特にない」は、生徒が22.7%で、他の対象者よりも高かった。

(問) 「弁当箱タイプの給食」について、あなたが課題だと思うことを、以下の項目から2つまで選び、該当する番号に○をしてください。

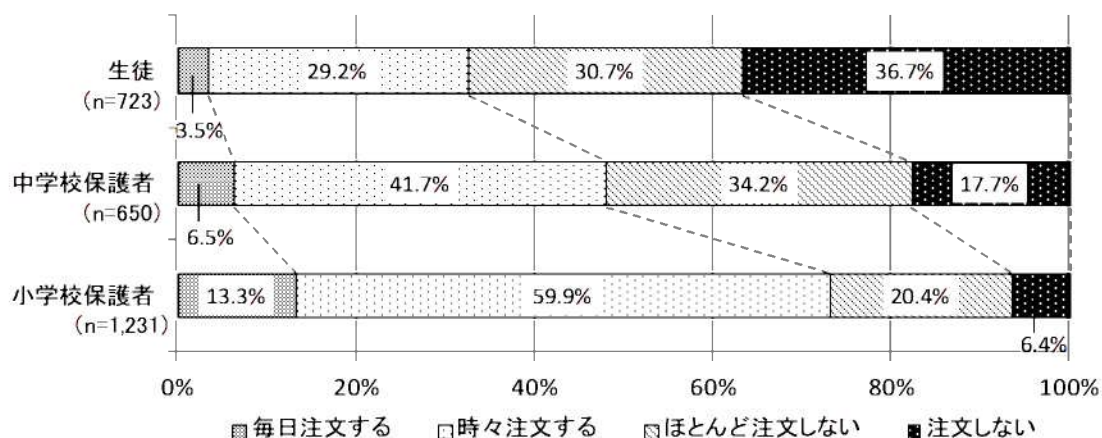
選択肢	対象者									
	生徒		中学校保護者		小学校保護者		教職員		市民	
有効回答者数(N)	717		658		1,232		610		721	
おかずは、適温(温かい・冷たい)での提供が難しいこと	⑤	17.0%	⑤	9.6%	③	14.0%	⑥	6.1%	⑤	11.7%
苦手なものを食べなければならないこと(食べ残しが多くなる)	②	27.6%	⑥	8.8%	⑥	8.5%	③	12.6%	④	15.5%
生徒ごとに内容や分量の調整ができないこと(食物アレルギー、個人の食べる量など)	③	27.2%	②	23.6%	②	28.7%	②	43.1%	②	42.9%
予約、前払いが必要なこと(当日の注文ができない)	①	38.8%	①	65.8%	①	63.4%	①	70.3%	①	54.9%
もしも食中毒などが起きた場合、影響が大きくなる可能性があること	⑥	16.5%	④	10.9%	⑤	13.2%	③	12.6%	③	21.6%
現在の「業者弁当・パン」が注文できなくなること	⑦	6.0%	⑦	5.9%	⑧	4.0%	⑤	9.2%	⑦	4.0%
その他	⑧	1.1%	⑧	5.3%	⑦	4.1%	⑧	4.3%	⑧	2.1%
特にない	④	22.7%	③	13.7%	④	13.6%	⑦	5.7%	⑥	9.8%

(4) 注文意向【弁当箱タイプの給食】

※「弁当箱タイプの給食」を実施する場合は、「家庭で作った弁当」と「弁当箱タイプの給食」のどちらかを選択する形を想定しているため、その場合に「弁当箱タイプの給食」をどのくらいの頻度で注文するかについて質問しました。

- ・「毎日注文する」と「時々注文する」の合計は、小学校保護者が 73.2%で一番高く、次いで、中学校保護者が 48.2%であった。生徒は 32.7%で、保護者よりも低かった。
- ・「注文しない」は、生徒が 36.7%で一番高く、次いで、中学校保護者が 17.7%で、小学校保護者は 6.4%であった。

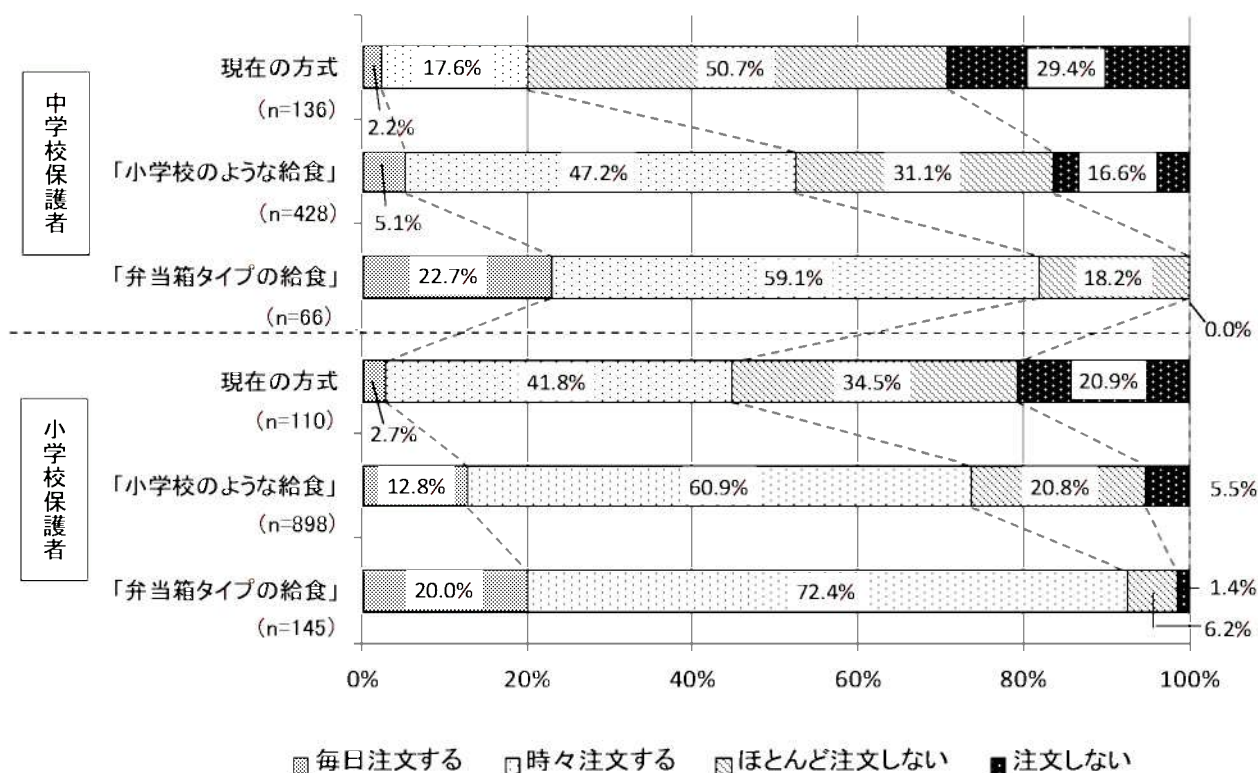
(問) もし、「弁当箱タイプの給食」(予約、前払い)を実施するとしたら、(あなたは)「弁当箱タイプの給食」を注文しますか。(注文しない場合は「家庭で作った弁当」を持参する)以下の項目から1つ選び、該当する番号に○をしてください。)



【参考】中学校保護者・小学校保護者の希望方式別の注文意向

- ・「毎日注文する」と「時々注文する」の合計は、「弁当箱タイプの給食」（予約・前払い）と「家庭で作った弁当」を併用する方式」を希望している場合が、中学校保護者が 81.8%、小学校保護者が 92.4%で、一番高かった。
- ・「小学校のような給食」の方式」を希望している場合の「毎日注文する」と「時々注文する」の合計は、中学校保護者が 52.3%、小学校保護者が 73.7%であった。
- ・「弁当箱タイプの給食」（予約・前払い）と「家庭で作った弁当」を併用する方式」を希望している場合、「ほとんど注文しない」は中学校保護者が 18.2%、小学校保護者が 6.2%であった。

【保護者の希望方式別（注文意向）】



※現在的方式：現在的方式（ミルク給食で、「家庭で作った弁当」と「業者弁当・パン」（当日注文）のどちらか）

※「小学校のような給食」：「小学校のような給食」の方式

※「弁当箱タイプの給食」：「弁当箱タイプの給食」（予約・前払い）と「家庭で作った弁当」を併用する方式

5 希望する実施方式について

(1) 参考情報

- ア 全国における中学校完全給食の実施率（平成 25 年 5 月 1 日時点の公立中学校）
86.0%（※「小学校のような給食」と「弁当箱タイプの給食」を合わせた実施率）
- イ 保護者が負担する給食費
選択肢 2 または 3 を実施した場合、保護者が負担する給食費は、1 食あたり 300 円程度（牛乳代込）を想定しています。（就学援助に認定された場合などは減免措置があります。）
- ウ 中学校完全給食を実施する場合に必要な市の経費（試算）

実施方法			初期整備費	年間運営費
選択肢 2	小学校のような給食	①中学校に給食室を作る場合	約 96 億円	約 5.9 億円
		②給食センターを作る場合	約 71 億円	約 5.2 億円
		③小学校の給食室を拡張する場合	約 44 億円	約 6.8 億円
選択肢 3	弁当箱タイプの給食	約 3 億円	約 4.2 億円	

※①～③はいずれも「小学校のような給食」を実施するための方式です。

※「弁当箱タイプの給食」は注文率が 50% の場合の試算です。（注文率により金額が変わります。）

※必要経費は他都市の事例等を参考にした現時点での試算額です。実施する場合には、可能な限り費用を抑えるための検討をしていきます。

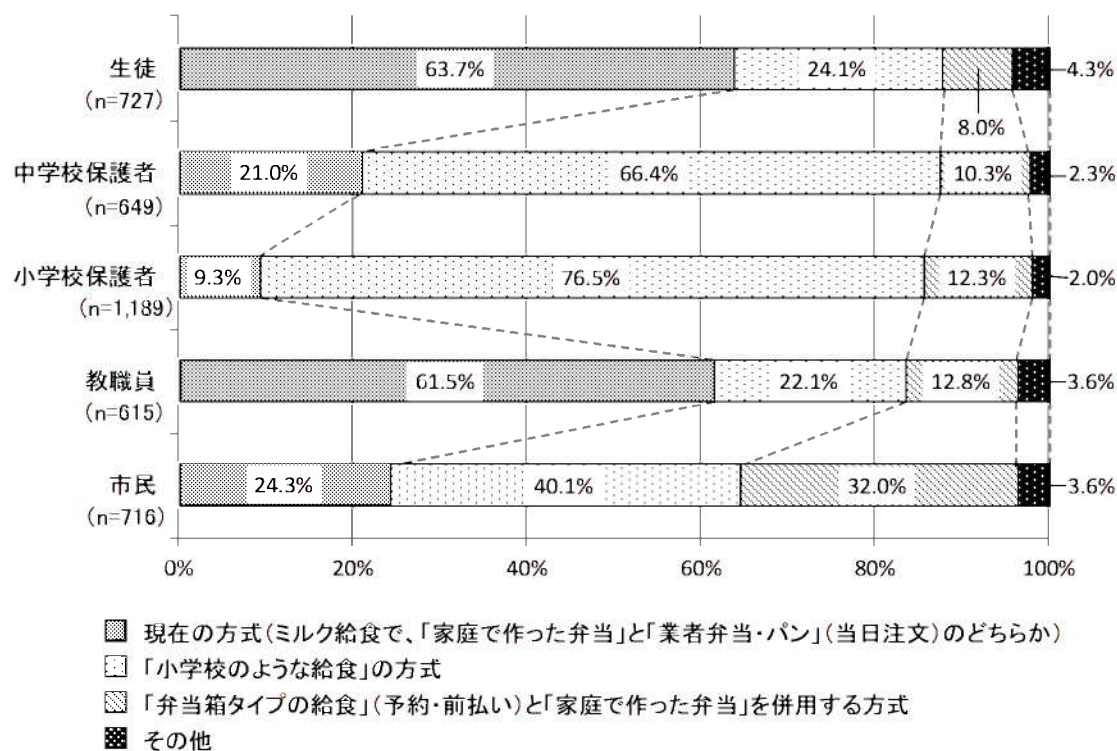
※①と②の初期整備費の一部は、国の補助金の対象となることを想定しています。

（①約 6 億円 ②約 5 億円）

(2) 希望する方式

- ・生徒が63.7%、教職員が61.5%で、「現在の方式（ミルク給食で、「家庭で作った弁当」と「業者弁当・パン（当日注文）」のどちらか）」が一番高かった。
- ・中学校保護者が66.4%、小学校保護者が76.5%で、「小学校のような給食」の方式が一番高かった。
- ・市民は、「小学校のような給食」の方式が40.1%で一番高かった。次に「弁当箱タイプの給食」（予約・前払い）と「家庭で作った弁当」を併用する方式が32.0%で、これは、他の対象者よりも高かった。

(問) 中学校の昼食として、あなたが良いと思う方式を、以下の項目から1つ選び、該当する番号に○をしてください。（*設問の下に（1）の参考情報を掲載した。（生徒以外）

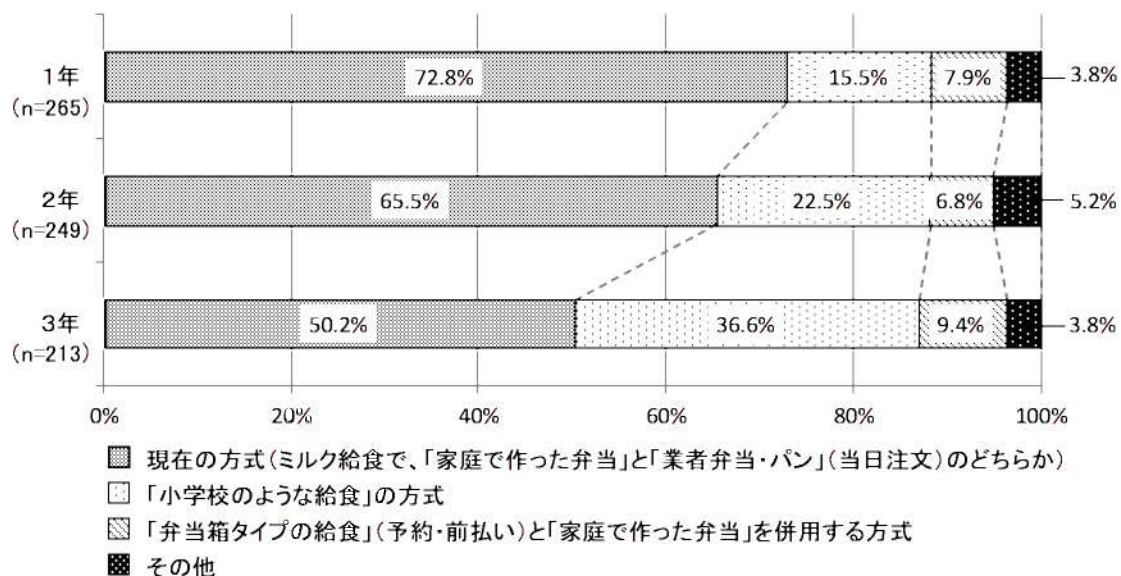


【参考】生徒・中学校保護者・小学校保護者の学年別／中学校保護者・小学校保護者の弁当を作ることへの負担感別／市民の中学生以下の子どもの有無別*（希望する方式）

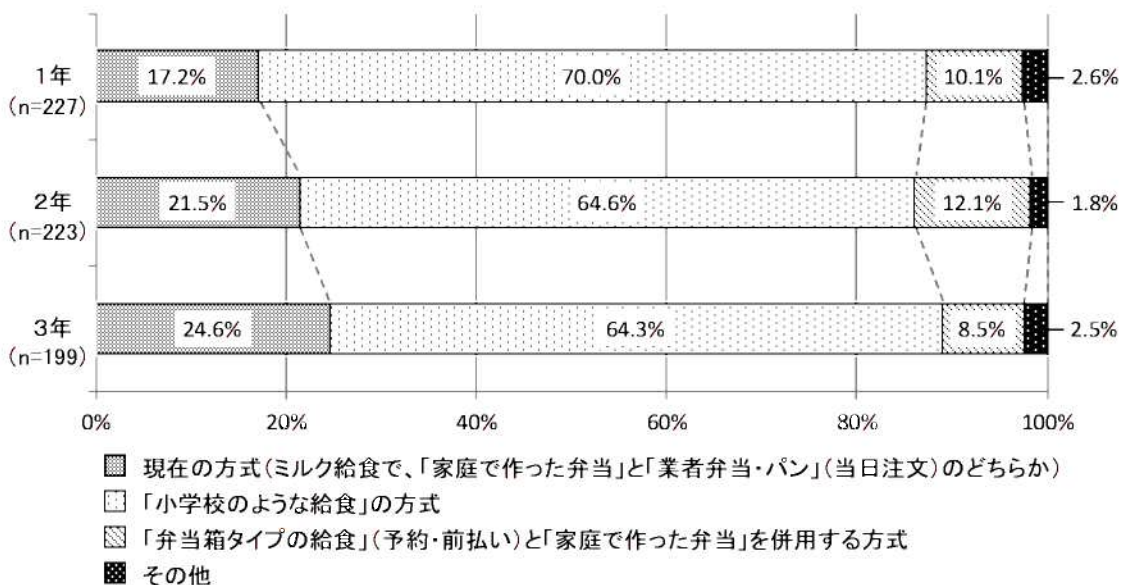
(*回答者の住まいにおける中学生以下の子・孫の有無)

- ・生徒の学年別では、「現在の方式」は、1年生が72.8%、2年生が65.5%、3年生が50.2%で、学年が上がるごとに希望する割合が低かった。「小学校のような給食」を希望する割合は、学年が上がるごとに希望する割合が高かった。
- ・中学校保護者の学年別では、「現在の方式」は、1年生が17.2%、2年生が21.5%、3年生が24.6%で、学年が上がるごとに、希望する割合が高かった。
- ・中学校保護者・小学校保護者とも、弁当を作ることへの負担感が大きいほど、「小学校のような給食」を希望する割合が高かった。
- ・「小学校のような給食」を希望する割合について、市民で中学生以下の子どもがいる場合は64.3%、いない場合は31.4%であった。

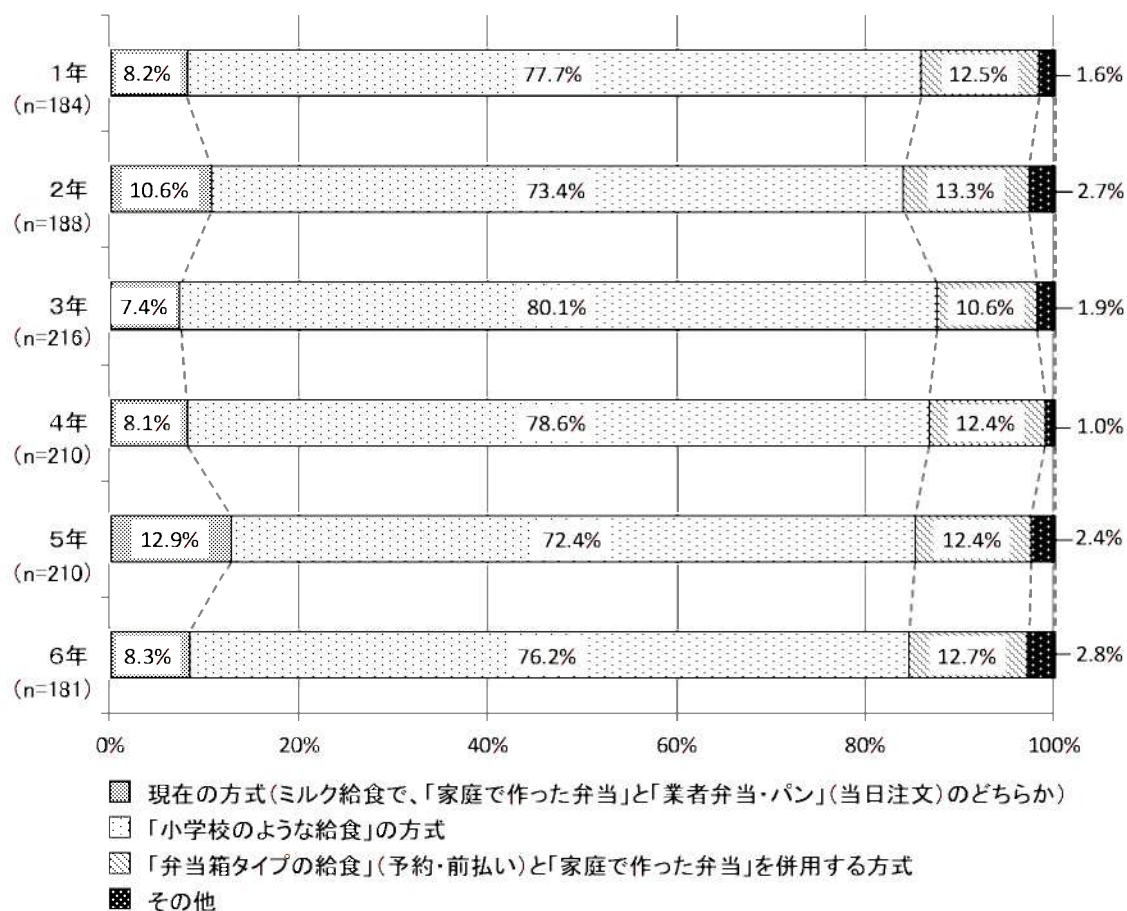
【生徒の学年別（希望する方式）】



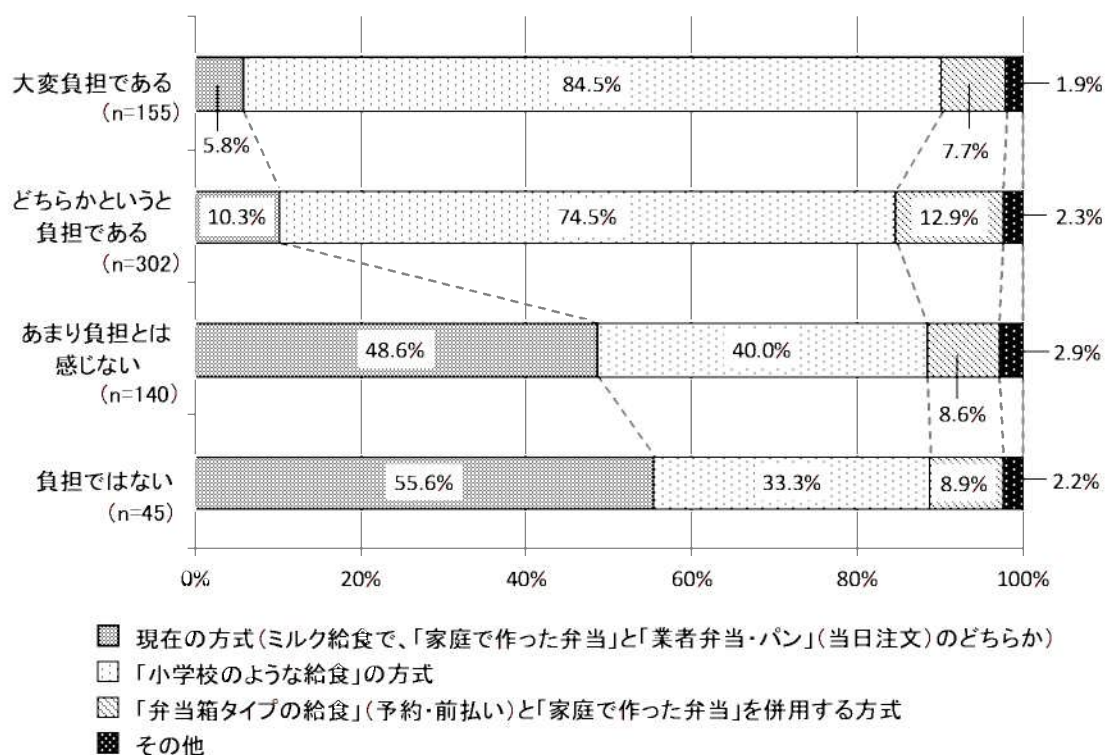
【中学校保護者の学年別（希望する方式）】



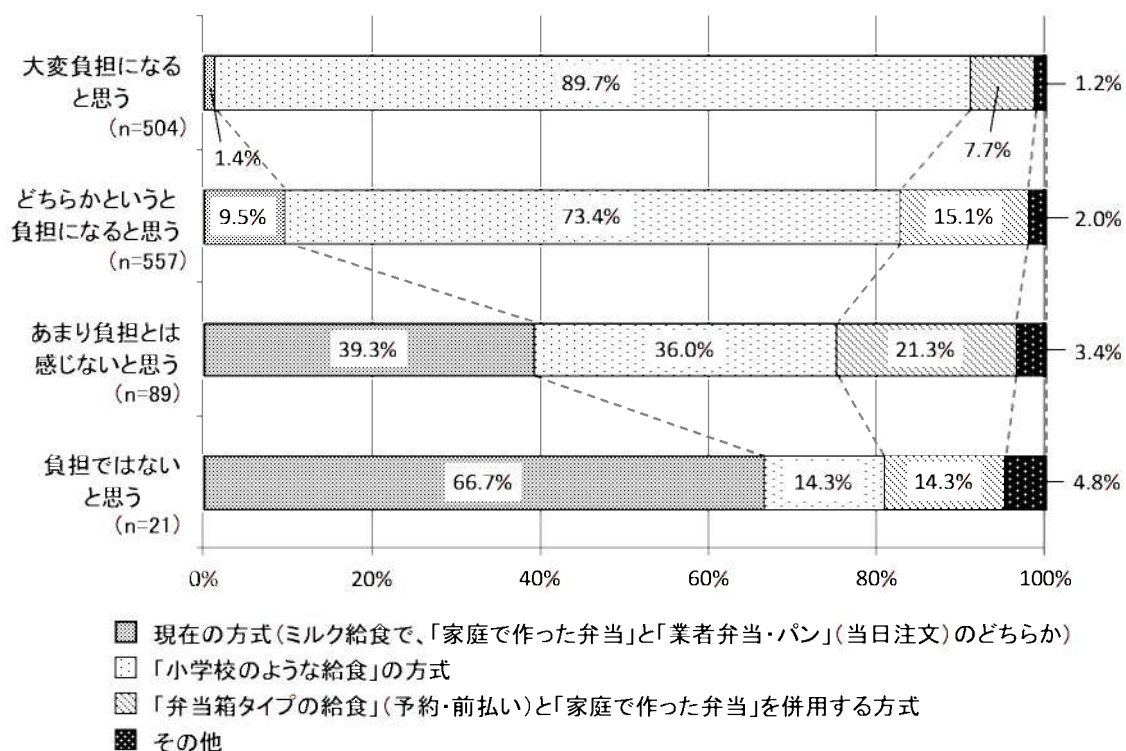
【小学校保護者の学年別（希望する方式）】



【中学校保護者の弁当を作ることへの負担感別（希望する方式）】

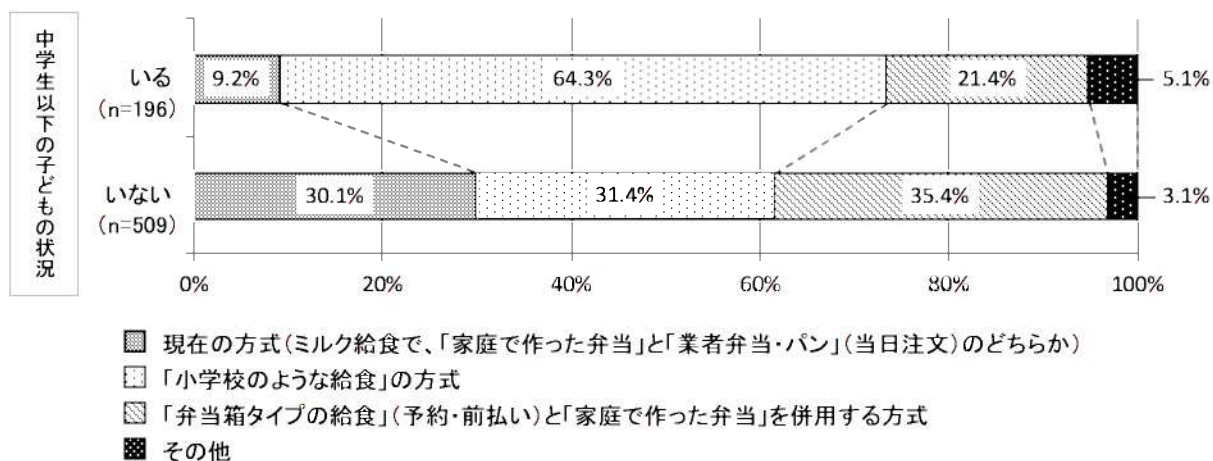


【小学校保護者の弁当を作ることへの負担感別（希望する方式）】



【市民の中学生以下の子どもの有無別*（希望する方式）】

(*回答者の住まいにおける中学生以下の子・孫の有無)

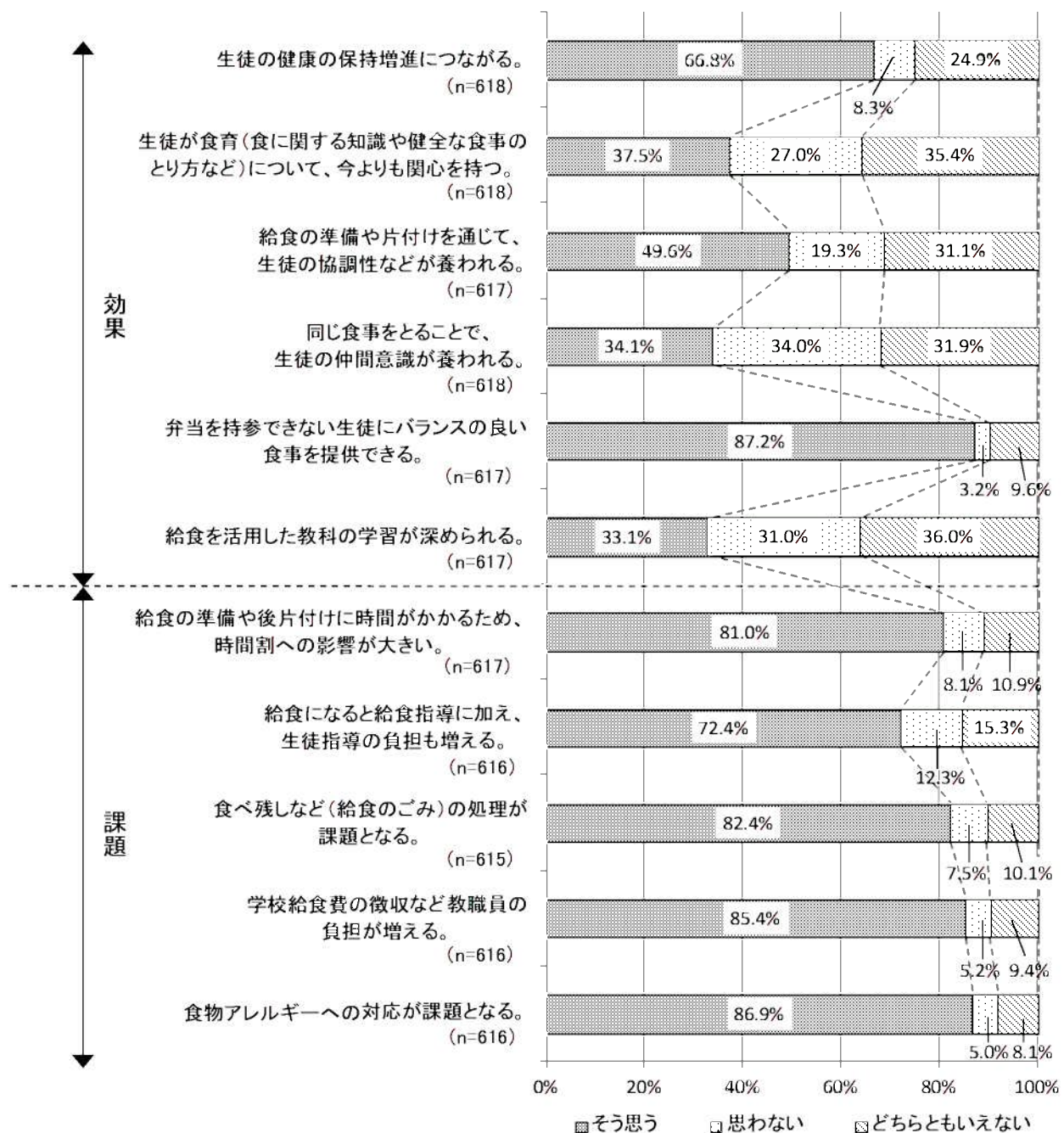


6 給食を実施した場合の学校への影響について

(1) 「小学校のような給食」を実施した場合の影響

- ・効果についての設問で「そう思う」という回答は、「弁当を持参できない生徒にバランスの良い食事を提供できる。」が87.2%で一番高く、「生徒の健康の保持増進につながる。」が66.8%で次に高かった。
- ・課題についての設問で「そう思う」という回答は、全ての質問で70%以上であった。

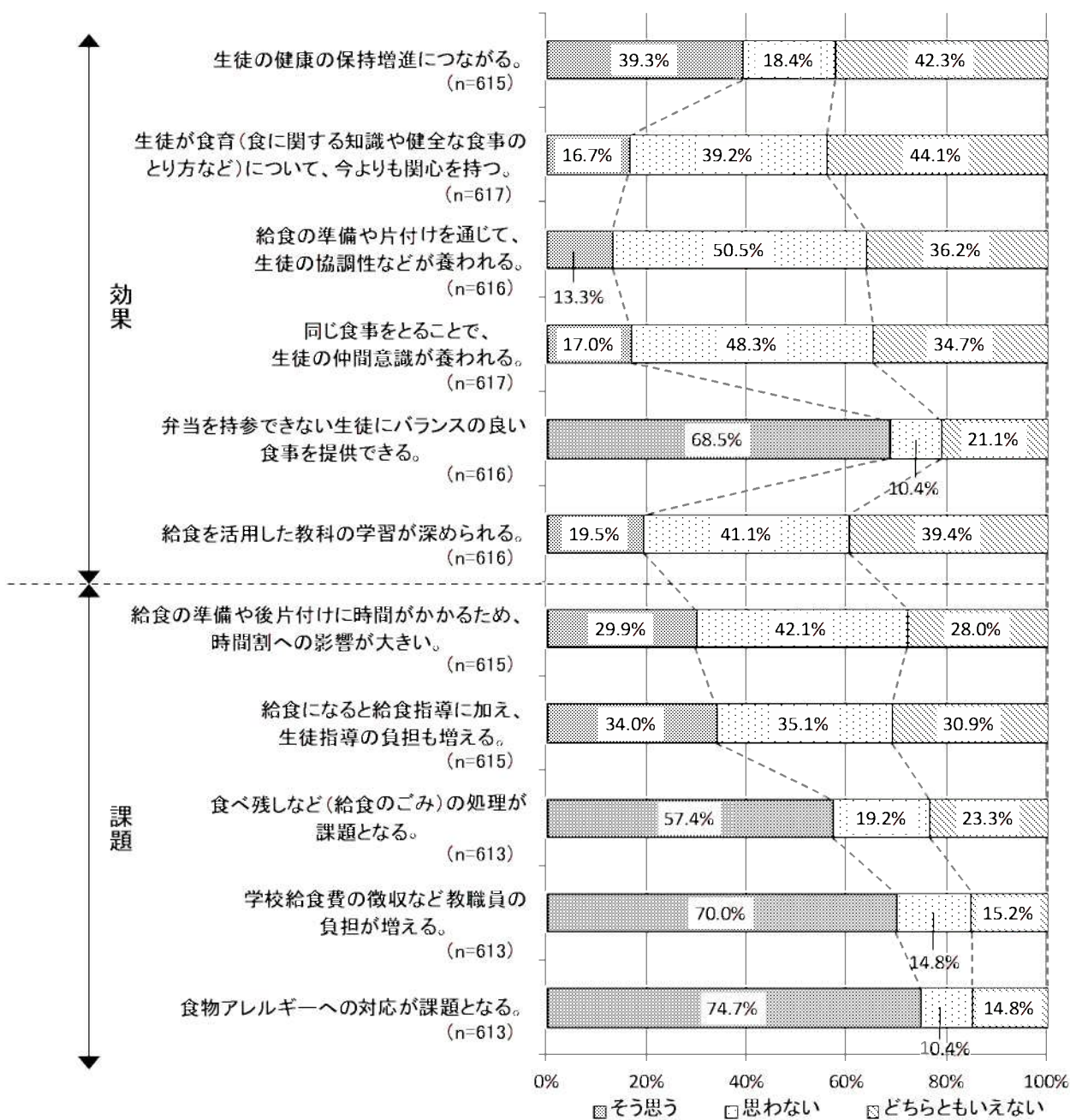
【小学校のような給食】（教職員）



(2) 「弁当箱タイプの給食」を実施した場合の影響

- ・効果についての設問で「そう思う」という回答は、「弁当を持参できない生徒にバランスの良い食事を提供できる。」が68.5%で一番高く、「生徒の健康の保持増進につながる。」が39.3%で次に高かった。
- ・上記以外の効果についての設問では、「思わない」が「そう思う」よりも高かった。
- ・課題についての設問で「そう思う」という回答は、「食物アレルギーへの対応が課題となる。」が74.7%で一番高く、「学校給食費の徴収など教職員の負担が増える。」が70.0%で次に高かった。
- ・「給食の準備や後片付けに時間がかかるため、時間割への影響が大きい。」「給食になると給食指導に加え、生徒指導の負担も増える。」については、「思わない」が「そう思う」よりも高かった。

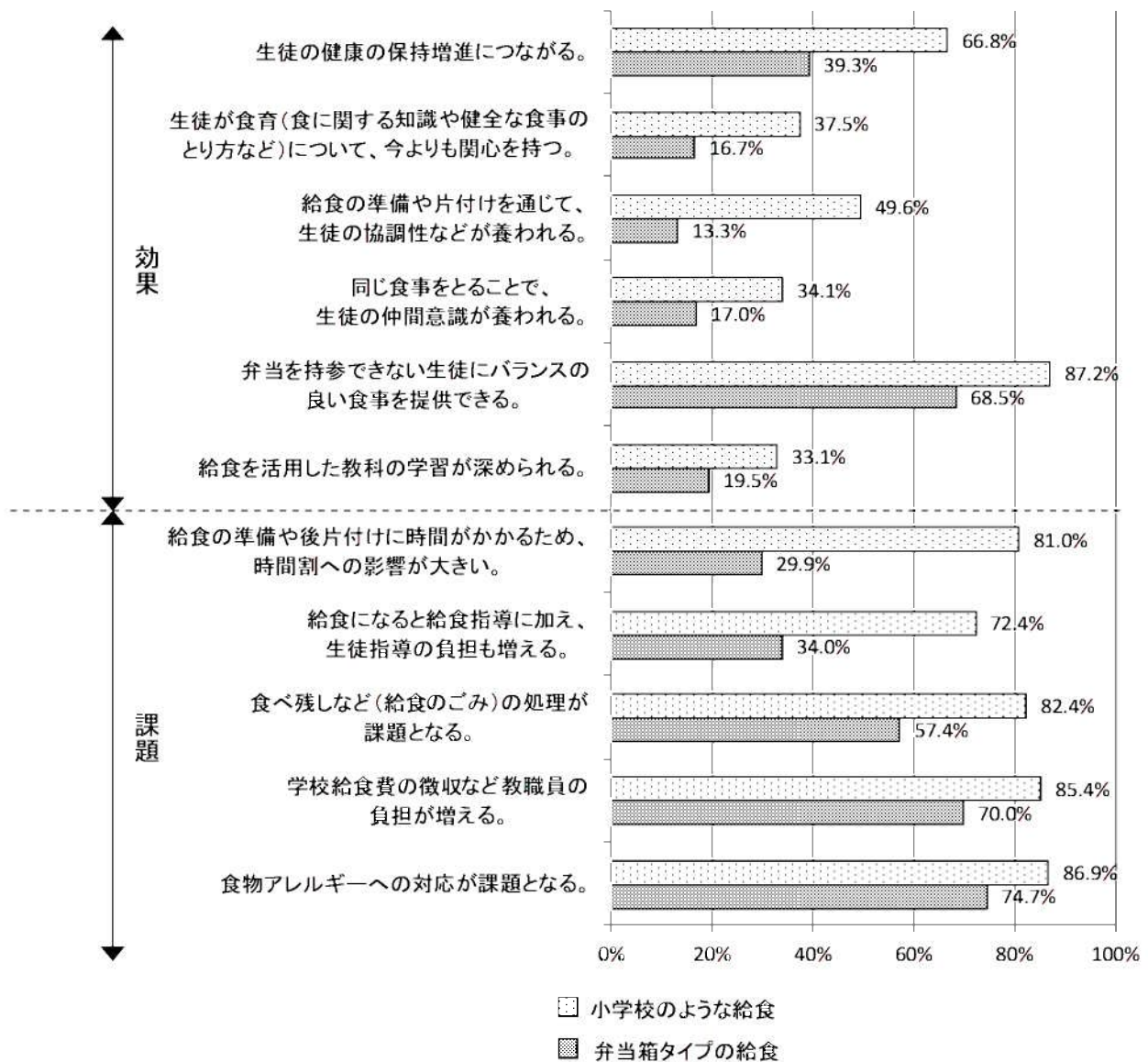
【弁当箱タイプの給食】（教職員）



(3) 「小学校のような給食」と「弁当箱タイプの給食」の学校への影響の比較

・各質問に対して、「そう思う」という回答の割合を比較すると、効果についての設問においても、課題についての設問においても、「小学校のような給食」が「弁当箱タイプの給食」よりも高かった。

【「小学校のような給食」と「弁当箱タイプの給食」の学校への影響の比較】（教職員）



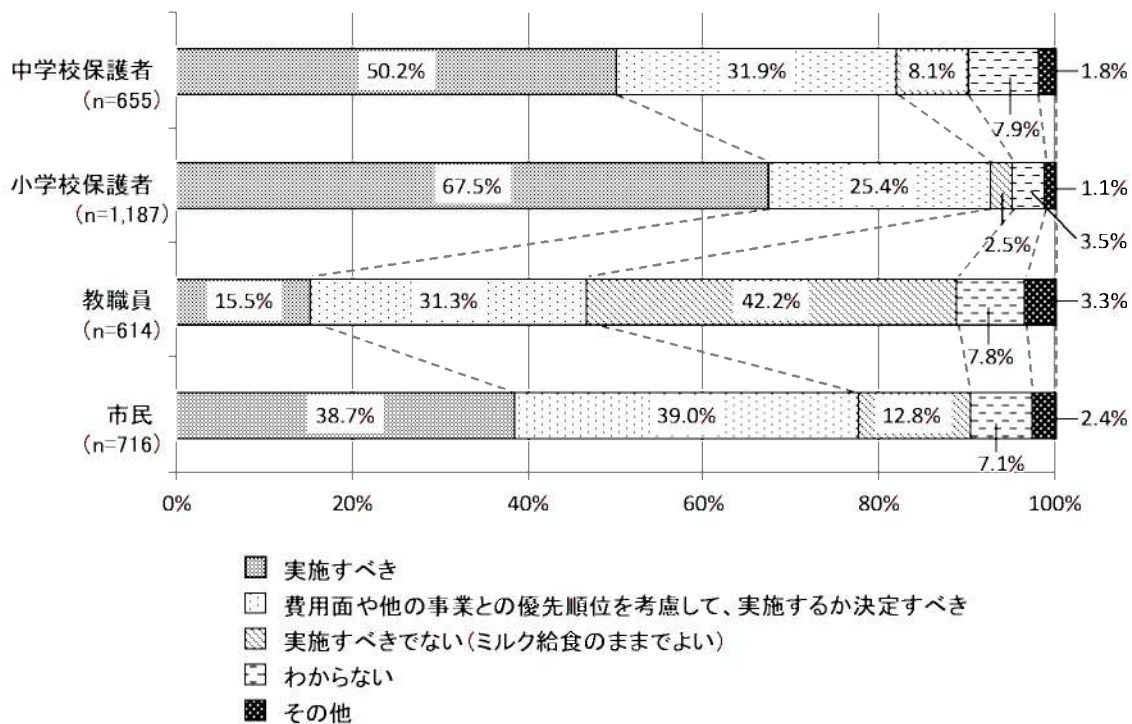
7 完全給食の実施について

- ・中学校保護者は、「実施すべき」が50.2%で、「実施すべきでない」の8.1%よりも高かった。
- ・小学校保護者は、「実施すべき」が67.5%で、「実施すべきでない」の2.5%よりも高かった。
- ・教職員は、「実施すべきでない」が42.2%で、「実施すべき」の15.5%よりも高かった。
- ・市民は、「実施すべき」が38.7%で、「実施すべきでない」の12.8%よりも高かった。
- ・市民は、「費用面や他の事業との優先順位を考慮して、実施するか決定すべき」が39.0%で「実施すべき」よりも高く、また、他の対象者よりも高かった。

(問) 横須賀市では現在、中学校では牛乳のみの給食で、完全給食(「小学校のような給食」や「弁当箱タイプの給食」)は実施していません。

あなたは、横須賀市の中学校での完全給食の実施についてどのように考えますか。

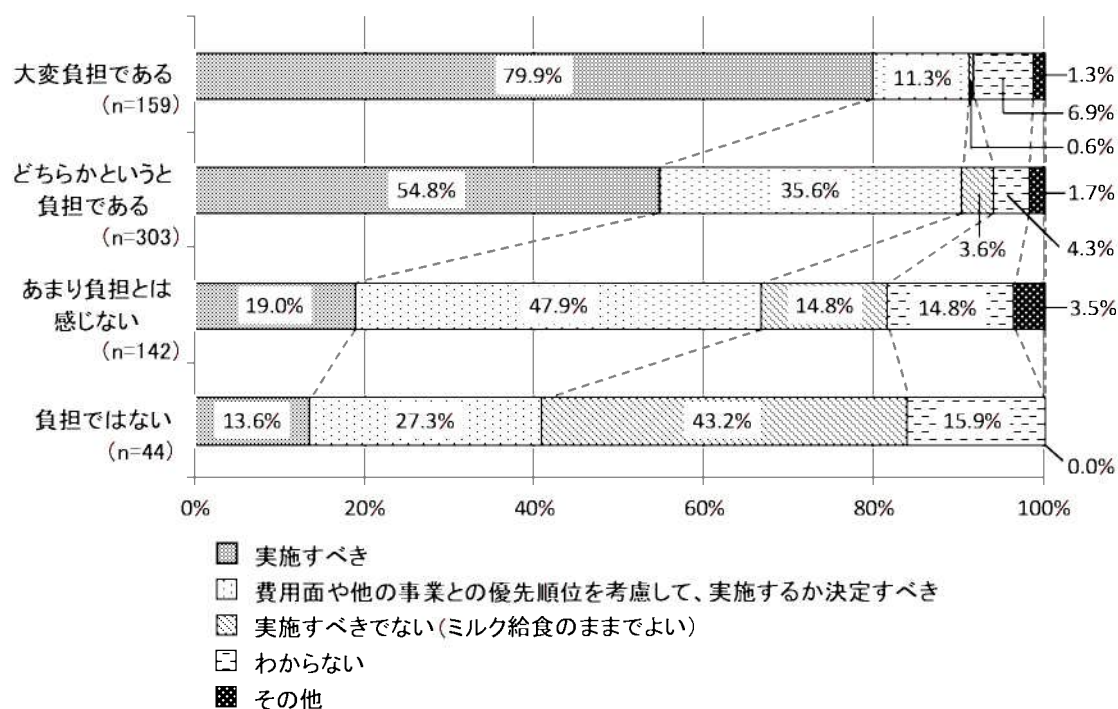
(あてはまるもの1つに○)



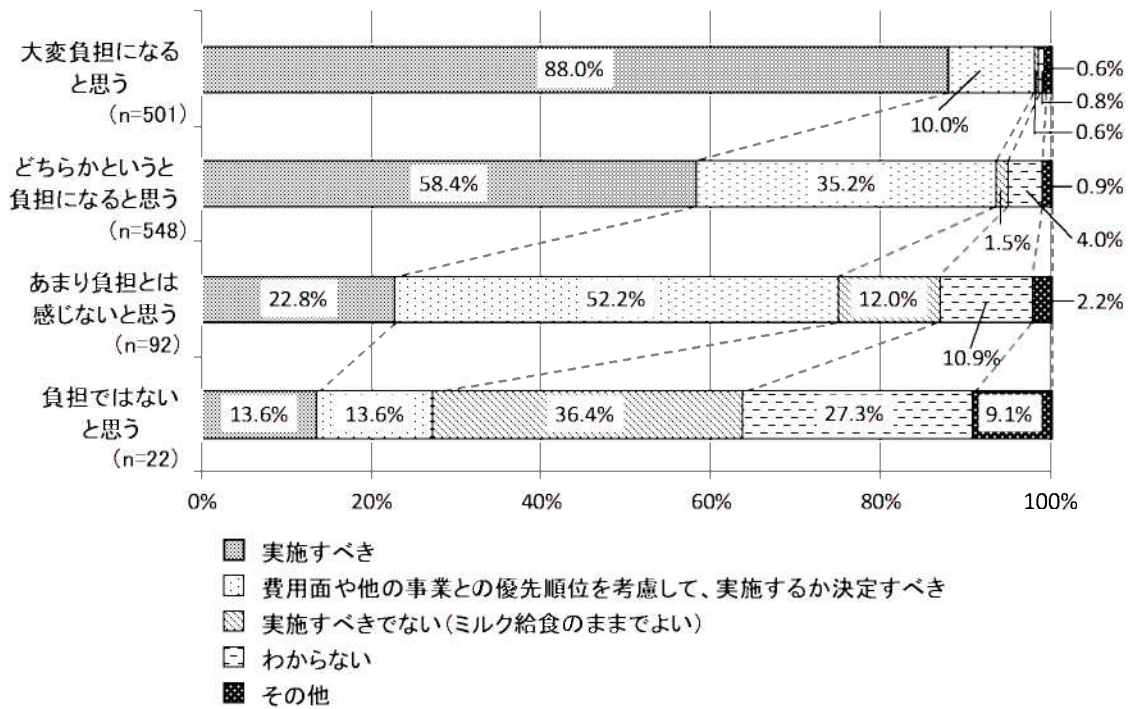
【参考】中学校保護者・小学校保護者の弁当を作ることへの負担感別／
 市民の中学生以下の子どもの有無別* (完全給食の実施について)
 (*回答者の住まいにおける中学生以下の子・孫の有無)

- ・中学校保護者・小学校保護者とも、弁当を作ることへの負担感が大きいほど、完全給食を「実施すべき」が高かった。
- ・「実施すべき」について、市民で中学生以下の子どもがいる場合は 61.6%、いない場合は 30.2%であった。

【中学校保護者の弁当を作ることへの負担感別(完全給食の実施について)】



【小学校保護者の弁当を作ることへの負担感別(完全給食の実施について)】



【市民の中学生以下の子どもの有無別*(完全給食の実施について)】

(*回答者の住まいにおける中学生以下の子・孫の有無)

